

# ぶら 探訪

その九

福山城の痕跡を歩く～三の丸から本丸まで～

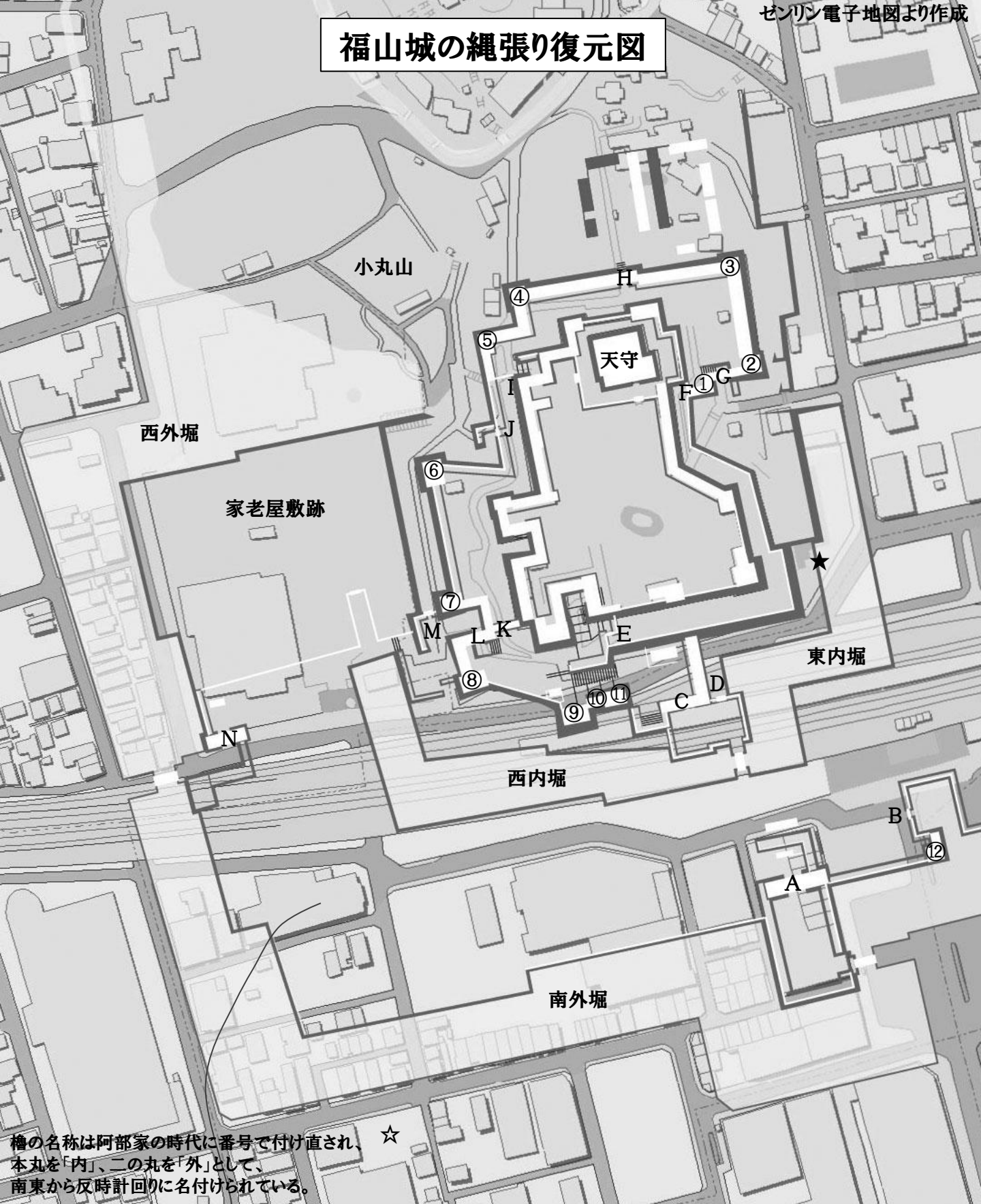
講師 田中伸治



絵: 吉田和隆

平成25(2013)年2月2日

## 福山城の縄張り復元図

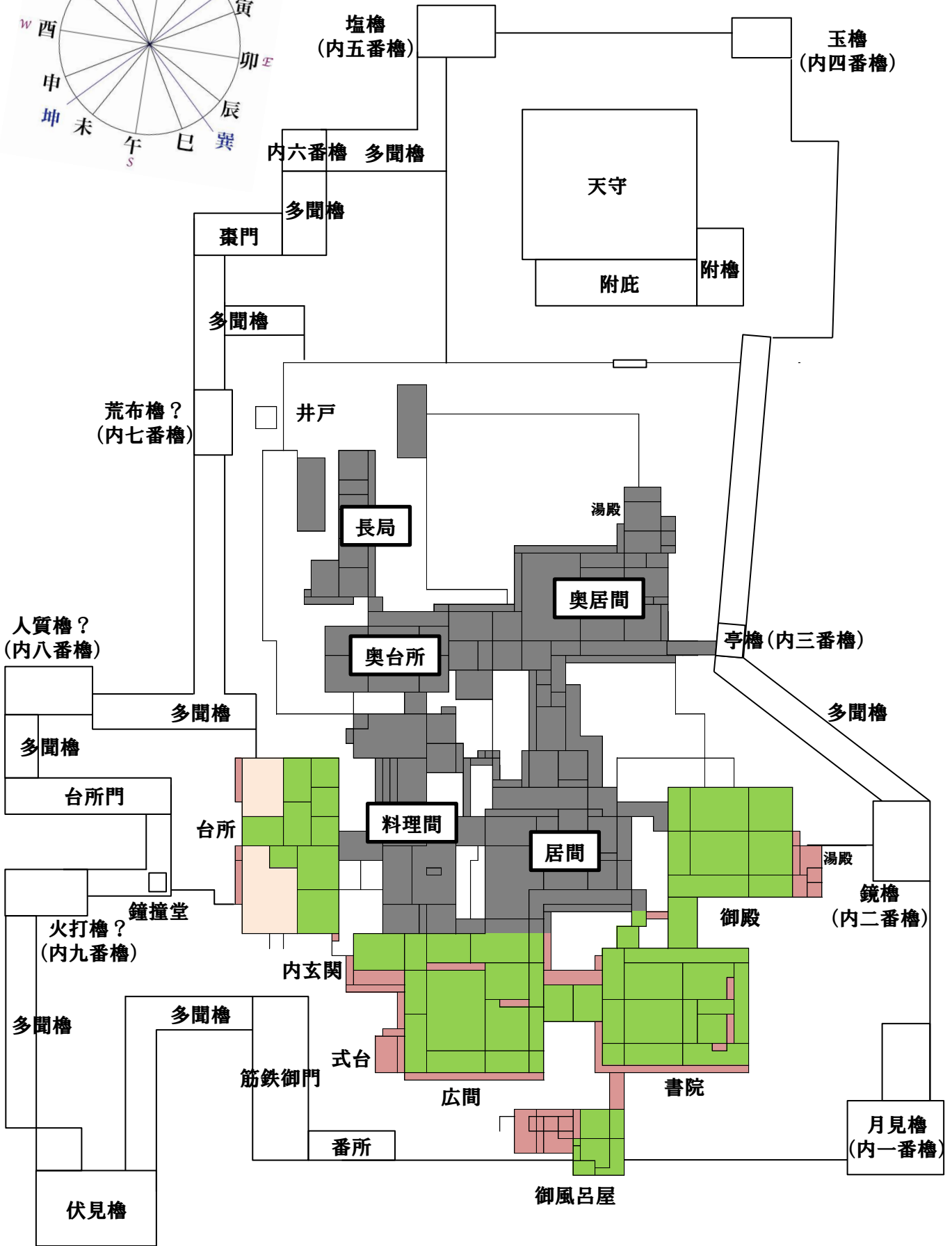
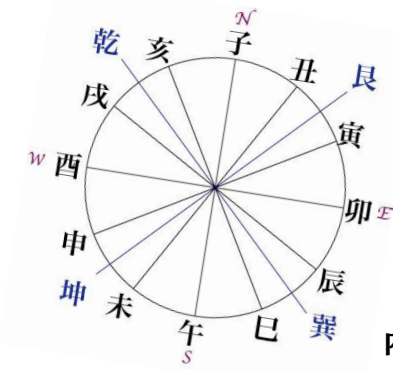


櫓の名称は阿部家の時代に番号で付け直され、☆  
本丸を「内」、二の丸を「外」として、  
南東から反時計回りに名付けられている。

- 櫓**
- |               |               |
|---------------|---------------|
| ①外一番櫓 (鹿角菜櫓)  | ⑧外八番櫓 (神辺壺番櫓) |
| ②外二番櫓 (東坂三階櫓) | ⑨外九番櫓 (櫛形櫓)   |
| ③外三番櫓 (鬼門櫓)   |               |
| ④外四番櫓 (乾櫓)    |               |
| ⑤外五番櫓 (神辺四番櫓) |               |
| ⑥外六番櫓 (神辺三番櫓) |               |
| ⑦外七番櫓 (神辺二番櫓) |               |

- 門**
- |        |        |
|--------|--------|
| A 大手門  | H 蔵口門  |
| B 水門   | I 仕切門  |
| C 鉄門   | J 水手門  |
| D 四ツ足門 | K 西帯郭門 |
| E 仕切門  | L 西坂口門 |
| F 仕切門  | M 埋門   |
| G 東坂口門 | N 西門   |

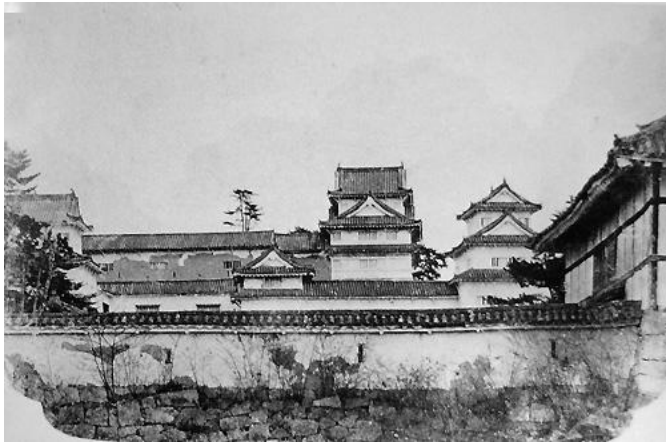
# 本丸の構成



本丸の櫓は、伏見櫓を除外し、月見櫓の「内一番」から火打櫓の「内九番」まで番号が振られている。

# 明治初期の福山城古写真 (「福山城誌」「福山城」より)

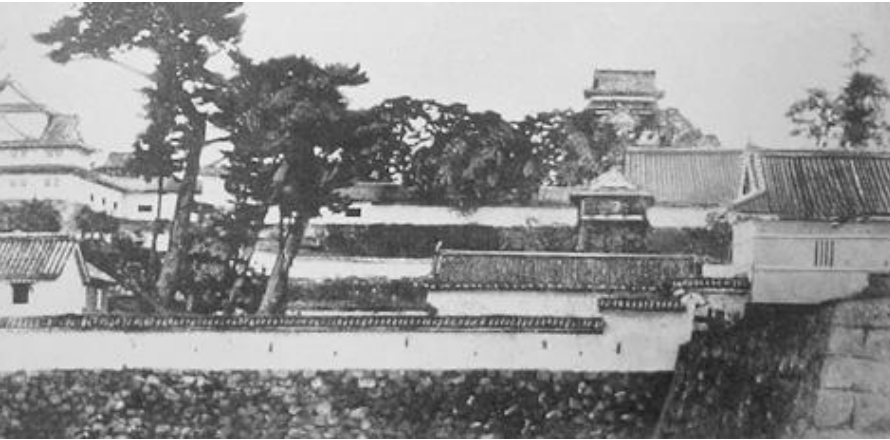
西から



東から



南から



南東から



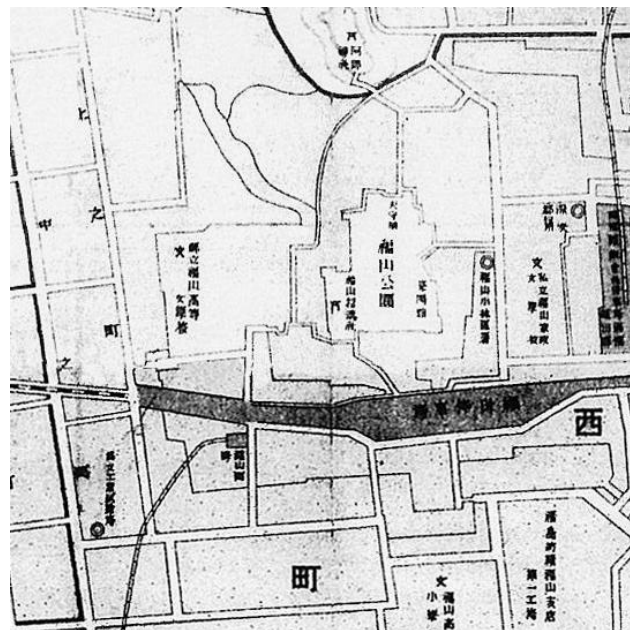
## 「福山領分語伝記」での福山城の記述

櫓数式拾五、窓式百拾ウ梓(狭)間百四十五

内

- 一、三階内櫓六ツ
- 一、二階櫓一六 内ニツハノ丸屋敷テアリ
- 一、伏見矢倉 一、月見矢倉 一、鎗矢倉
- 一、アラメ矢倉 一、天守附矢倉 一、櫛形矢倉
- 一、鉄砲矢倉 一、乾矢倉 一、人質矢倉
- 一、神辺矢倉 一、具足矢倉 一、鏡矢倉
- 一、多門長屋惣間三百三十間 窓百二ツ 梓(狭)間百式十九
- 一、御本丸門数拾壹ヶ所
- 一、御番所三ヶ所
- 一、鉄御門 一、同所外 一、四ツ足門
- 一、筋鉄門 一、東帯曲輪御門 一、西坂口門
- 一、西帯曲輪御門 一、チヤコが門 一、棗木門
- 一、東上り立御門 一、水ノ手門 一、御城米出口門
- 一、二の丸門数五ヶ所 御番所四ヶ所
- 一、南追手門 東御門 西御門 北御門 水ノ手門
- 一、本丸二井戸三ヶ所 御臺所脇ニ巷ヶ所、西坂口門ニ巷ヶ所、清水鉄門外ニ巷ヶ所

## 大正3年の福山城周辺



# 「備陽六郡志」での福山城の記述

一、御屋形 勝成公御一代本丸に被成御座、勝俊公御代二丸に御屋形を御建御移、夫より松平忠雅公、当御代迄、二代(丸か)に被成御座候。忠雅公御参勤之節ハ、御本丸ハ御免駕被成、御帰城之節も先御本丸へ御入、それより二丸之御屋形へ御移被成候由。  
虎之間 御玄関なり、敷台の上に牡丹三獅子の彫物有、尤極彩色なり、九間半拾間半。

内玄関 四間五間 御玄関より書院へ取付の溜を仙人の間と云。

書院 八間、拾壱間 皇帝の間と云。

御殿 八間、八間半 箱棟に葵の御紋付、御殿の内惣張付墨絵の山水、合天井秋野の七種、いづれも狩野永徳筆なり。是は伏見より御拝領なり。

御居間 六間、拾式間 大津之景を描。

右之御間惣張、障子の腰、杉戸、唐紙、不残極彩色なり。

料理間 五間、拾式間

御台所 七間、拾式間 勝成公、相撲を好せられ、此所の庭にて御覽被成候由。

高サ壱間壱間半四方ほどの高欄付たる箋(棧か)敷有。

奥御居間七間拾壱間 同御台所四間八間 御居長局 享保十五戌年崩、江戸へ被遣。

下台所六間九間戌年より以前に被崩。

御風呂呂屋 伏見ハ御拝領、鉄門番所之上に有。

一、鐘撞堂 鐘差渡式尺五寸高サ四尺五寸龍頭マテ 太鼓差渡三尺長サ三尺五寸

一、櫓

三階櫓 伏見ハ御拝領、筋鉄門の前に有、城付武具入。

火灯櫓 右同断 時之鐘之後に有。

月見櫓 右同断 東方御殿之後に有。

右いづれも戸柱などに松の丸と書付有。

櫛形櫓 神辺方来 柏木番所之前に有。弓鉄砲其外武具入

神辺一番櫓 右同断 右番所之後、西南之角に有、寺社方帳面入。

同二番 同三番 同四番 右何れも西之方二有。

人質櫓 神辺方来 乾之方に有。

荒布櫓 右同断 坤之方に有。

鹿角菜櫓 右同断 東坂口門之上に有。

玉櫓 右同断 天守之後、東之角に有。

塩櫓 右同断 天守之後、西之角に有。

亭櫓 東之方二有。

天守付櫓

右之外渡り櫓有。絵図にて可考。(絵図は本書にない)

一、門  
鉄門 此門之上、武具入 東方武者走へ出小門升形之内二有  
西坂口門 埋門有、西方武者走へ出ル忍口なり。

筋鉄門 東方帶曲輪へ出、小門有。

棗門  
馬出門 チヤノコ門とも云。

蔵口門

東坂口門

下台門

台所門

一、清水

西坂口門之内壱ヶ所

東坂口門之内壱ヶ所

地蔵之清水 此清水之外側に六地藏有常興寺繁榮之節よりの地藏也。

一、井

鉄門升形之内二ヶ所

御台所脇二ヶ所

一、番所

筋鉄門之内壱ヶ所

坂上

鉄門

馬出門之外、藪之内壱ヶ所所有之、御長柄之者壱人ツ、番相勤候所、近年相止。

一、渡櫓 三百八拾間、多門一軒分伏見より御拝領。

一、天守之後帶曲輪、蔵口門之外、御城米蔵有、五千石と云。

水野家の御代より壱万石御預米有五千石を浜の蔵に入、五千石ハ此蔵に被入置、依而五千石共御城米共云。然處近來御用米と可唱由被仰渡、正福公御代対州府中へ式千百石長州赤間か関江七千二百石、御廻米被仰付、其以後御預米無之故、廻場役所等も朽倒れ、御蔵も大破に及候に付、三間拾間の蔵式ヶ所、三間二式拾五間の蔵一ヶ所相残。

## 【コラム】三の丸御屋形建設のナゾ

現在、福山城関係のほとんどの書籍類では三の丸御屋形は水野家二代藩主勝俊によって建てられたとされています。

しかし、本当にそうでしょうか？

阿部時代初期に水野家の遺臣が記した「福山領分語伝記」では、水野勝俊について、「此殿様までは御城内之御住居ニ而、二ノ丸(注:現在の三の丸)御屋敷は其後之儀ニ候」と、三の丸御屋形に住んだのは勝俊以降であると記されています。

しかも、三代藩主水野勝貞については、「御下屋敷は殿様御病氣ニ付、御建テ遊被、御気晴所ニ成被候由、夫より直に御住居御座成被候に付、其頃者御上屋と唱候由。」とあり、三代勝貞が御上屋(後の三の丸御屋形)を建てたとはっきりと書かれています。

ところが、後に書かれた「備陽六郡志」では、「御屋形 勝成公御一代本丸に被成御座、勝俊公御代ニ丸に御屋形を御建御移、夫より松平忠雅公、当 御代迄、二代(丸か)に被成御座候。」と、二代勝俊が三の丸御屋形を建てたと記されています。

つまり、少なくともどちらかの記述が誤っているわけですが、書籍等では福山領分語伝記は無視され、備陽六郡志の記述が全面的に受け入れられています。文献の信頼性は後に書かれた方が信頼性が低いのが原則であるにも関わらず…

このように、検証すれば疑問の余地が生じることでも、疑いようのない事実であるかのように扱われるのは、三の丸御屋形についてだけでなく、福山城の「定説」の多くに見られます…



# 備陽史探訪の会

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

E-mail info@bingo-history.net

公式サイト

<http://bingo-history.net>